

「農業高校への注目や期待が高まる中、クラブ員が自覚を持って応えるためにはどんな活動が必要か。」

クラブ員代表者会議 近畿ブロック連盟 大阪府立園芸高等学校
バイオサイエンス科 2年 後藤 航太
バイオサイエンス科 2年 白木 泰地
バイオサイエンス科 2年 岡部 正樹
バイオサイエンス科 2年 野坂 彌

1 はじめに

(1) 近畿ブロックの紹介

近畿学校農業クラブ連盟は、兵庫県(11クラブ 2,700名)・奈良県(6クラブ 709名)・和歌山県(4クラブ 567名)・滋賀県(4クラブ 1,240名)・京都府(10クラブ 1,024名)・大阪府(4クラブ 1,325名)の2府4県が加盟しており、総クラブ数 39、総クラブ員数 7,565名で構成されています。

(2) 大阪府連盟の紹介

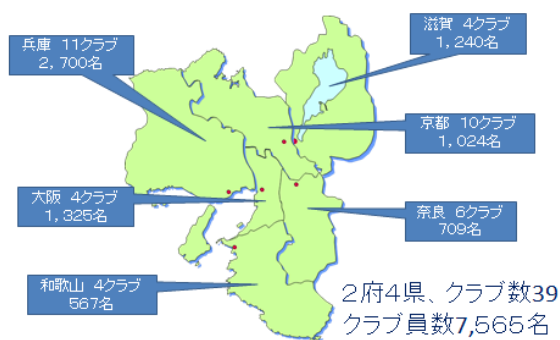
大阪府連盟は、総合学科校として大阪府の最北端 能勢町にあります能勢高校(100名)と東大阪市にあります枚岡樟風高校(66名)の2校。

農業学科単独校として、堺市にあります農芸高校(583名)と池田市にあります園芸高校(576名)の2校。

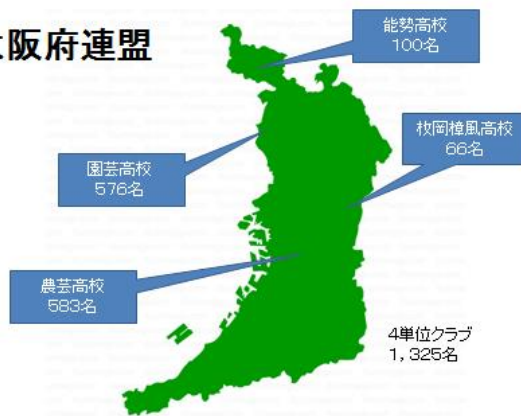
合わせて計4校、クラブ員数 1,325名で構成されています。

2年前の平成28年度には全国大会の開催府となりました。

【近畿ブロック連盟の紹介】



大阪府連盟



(3) 大阪府の農業の特徴

大阪の農業のイメージについては、東京に次ぐ大都会なので、農業はあまり盛んではないと思われている方が多いのではないのでしょうか。

確かに農家戸数、就業人口、耕地面積など全国レベルから見ると低いです。

しかし、大都会という面、すなわち大消費地に近いというメリットを生かし、輸送面で痛みやすい、また日持ちの良くない作物を栽培し多くの収益を上げている農家が多くいます。

生産量で見ると、全国2位のしゅんぎく、6位のふき、8位のこまつな、7位のぶどうなどが挙げられます。このように大阪の農業もまだまだ期待できる産業だと思われます。



(4) 大阪府立園芸高等学校の紹介

本校は、1,915（大正4）豊能郡立農林学校としてスタートし、昭和23年大阪府立園芸高等学校と改称され、何年かの学科改編を経て現在のフラワーファクト科、環境緑化科、バイオサイエンス科の3科編成となりました。平成27年度に創立100周年記念式典を行い、本年度で創立103年目を迎えています。

2 大阪府連盟単位クラブの活動事例

(1) 農芸高校

☆食育活動

農芸高校資源動物科酪農班では、「酪農」や「食育」、「畜産の役割」について学習し、365日生乳を生産しています。地域の方々や近隣小学校を対象に、「牛乳の生産過程」や「食・いのちの大切さ」について伝えることを目的に、酪農教育ファーム活動を展開しています。



☆商品開発

農芸高校資源動物科では、平成22年度に商標登録を行い、平成25年度に大阪産（もん）の認定を受けた農芸ポークと、ハイテク農芸科で生産した野菜や果物を具材に、食品加工

科が考えたパッケージを加え、キャニオンスパイス株式会社との企業連携により、平成27年度、農芸ポークカレーを2,000箱を製造しました。



(2) 能勢高校

能勢高校は、地域の期待にこたえるため、地域の小学生と一緒に花苗を生産し、それを地域の施設へ寄贈する活動や、梅田の百貨店での農産物販売。地域の貴重な環境資源の保全など様々な活動を行っています。「親と子の食農体験学習」はJ A大阪北部と協力して昨年の9月23日土曜日に開催しました。本校のある豊能郡と、近隣の池田市・箕面市・豊中市に住んでいる小学校4年生から6年生とその保護者を対象でした。



(3) 枚岡樟風高校

枚岡樟風高等学校は、ボランティア団体と連携して、隣接する生駒山の里山保全に数年前から取り組んでいます。下草刈りなどの地道な作業のかたわら、保全の指標としてオオムラサキの生態調査を行っています。学校だけの取組みに終わらず、地域の方と一緒に作業し、自分たちの成果を伝えることでコミュニケーション力や農業力の向上に繋がっていると思います。また、地域の子どもたちに食の大切さを伝えるため、農業を体験してもらう取組みを実践しています。同時にこの活動も私たちに大きな力を与えてくれています。今後も地域と連携した色々な取組みにチャレンジしていきます。

里山保全(生駒山での調査)

■東大阪ボランティア団体
「枚岡を守る会」と連携した環境調査

- ・オオムラサキの生態調査
- ・下草刈り
- ・どんぐり加工



食農講座



サツマイモの植え付けから収穫までの農業体験

(4) 園芸高校

☆環境保全1

環境緑化科 ビオトープ部では、数年前から環境保全の取組み一つとして、バタフライガーデンの作成に取り組んでいます。ビオトープ部では都会の中に残るスペースを利用し、バタフライガーデンをつくりそこに多くの蝶を呼び込み、少しでも自然破壊を防ぐ活動を展開しています。



☆環境保全2

授業で森林生態について学んでいく中で、カシノナガキクイムシによる被害の増加を知り、その防除について取り組んでいます。

☆商品開発

本校ではコチョウランは種子繁殖で生産してきましたが、そこで、根からの培養ができな
いかと思いました。しかし、根の培養はほとんど成功例がありませんでした。そこで、植
物ホルモンを添加し、その濃度を変えて培養を繰り返したところナフトレン酢酸とベンジ
ルアデニンを添加した培地で1か月培養した後、ハイポネックス培地で培養すると、根か
らの個体再生が成功しました。



3 まとめ

私たちが日頃、学習している知識・技術は全て現代の人類の生存・生活と直結したものばかり。自分たちの農業クラブ活動の成果の全てが地域社会と深く関わりがある。そのことを常に忘れず今後も自信と自覚を持って農業クラブ活動に取り組むことが大切である。